

34

saveMLAK

水害を考えそなえる。



いつもの図書館を いつもではない大雨が襲ったらどうしますか？

大雨による大きな水害が今でも繰り返されています。豪雨はある日、突然襲ってきます。

「朝起きたら大雨の警報が出ていて、図書館に行ったら浸水していた」「暗い中、車で図書館に向かう途中に、アンダーパスを通り抜けようしたら、車に水が入ってきた。道路が冠水し、職員が集まらない」想像を超える豪雨の前に、混乱してしまい、何もできないことが多いといわれています。

もし、水害についてこれまで考える機会があまりなかったのならば、このポスターを考えるきっかけにしていただけたら幸いです。将来、水害に直面してしまったとき、必ず役に立つはずです。

最も大事な対策方法は 「みんなで考えること」です。

水害に限らず、災害にそなえるにあたり最も大切なことは、誰か一人ではなく、みんなで考えることだと思います。災害が起きたとき、実際に行動できなければ意味はありません。一人一人が高い意識を持ち、その時にそなえることが、被害を最小限に抑えることにつながるからです。

水害対策の一つをとっても、考えることは多く、どこから手をつけたらいいのか途方にくれてしまうかもしれません。そんなときは、最初から完全なものを作ろうとせず、まず、思いついたことからはじめて、少しずつ形を作っていくことをおすすめします。水害に関する展示をしたり、勉強会を行ったりすることも良いきっかけになると思います。このポスターの下段には、考える際に役立つ情報を掲載しています。ご参考になれば幸いで

水害を想定して、考えよう。

参考情報

例：大雨・洪水警報が発表されましたか、よくあることだから問題ないだろうと考え、眠りにつきました。朝起きると事態は急転。豪雨はおさまっていたものの、外はかなりの大雨です。勤務先の図書館が近かったあなたはどうにか図書館に到着することができました。図書館の周りは水で溢れしており、館内まで浸水してしまったようです。他の職員はまだ到着していないません。

あなたはどうしますか？
どのような被害がでていることが予想できますか？
復旧にはどのような作業が必要そうですか、どのようなものがあると役立ちそうですか？
事前にどのような対策ができたと思いますか？

saveMLAKでは、災害で被害を受けた
博物館・美術館（Museum）、
図書館（Library）、
文書館（Archives）、
公民館（Kominkan）
などの文化教育施設の復興を支援しています。


saveMLAK
<http://savemlak.jp/>